

野の仏さまにおききました

2023.5.8(月) NO17

「ひそみの藪」から 33 年後、家康再び星田へ

元和元年(1615)5月5日、徳川家康(74歳)は大坂城攻めのため、二条城を出て、東高野街道を進み河内に入り、午後3時ころ宿陣地の平井三郎右衛門宅に入った。

【ひそみの藪から】

1584年 小牧・長久手の戦いで豊臣秀吉と対戦



1600年 関ヶ原の戦いで、家康の覇権確立



1603年 征夷大將軍となる。江戸幕府が成立



ふるさとウォークの歴史散歩にて



「国家安泰」・「君臣豊楽」

家康と豊臣家の因縁の鐘、徳川家康がクレームをつけ大坂の陣をひきおこしたことは有名である。高さ4.2m、重さ82.7トン、説明のおばちゃんの「重いで=思い出」の一言

1614年 7月方広寺の鐘銘について豊臣家へ抗議(方広寺鐘銘事件)

11月豊臣方と徳川方激突(大坂冬の陣)

12月講和条約締結

1615年 1月徳川方、大阪城の濠を埋める

1615年 4月再び武力衝突(大坂夏の陣)

5月5日家康「大坂夏の陣」に出陣ため二条城を出発して星田の里正であった平井三郎右衛門清貞の邸宅に入った。

74歳の家康は、平服のまま駕籠に乗るといって立ちで、京都出発の時、戦陣用の食糧と食器等を持参した。



徳川家康使用の湯飲茶碗



徳川家康使用の火入

火入れ・皿類

家康に従ってきたものは、その周辺を護ったが、折わるくその夜は大雨だったので、大坂方の夜襲でもあろうかと、かがり火を方々に焚いて警戒した。

また、家康の旗じるしは、平井家が代々その別当職をつとめる新宮山八幡宮(標高 60m)の松に高くかけられた。この松を「家康旗かけ松」という(明治初年に枯死)



交野郷土史かるた



旗掛け松碑



「広報かたの」4月号表紙

その夜、作戦会議が家康の宿舎で行われ、二代将軍秀忠、謀臣の本多正信・藤堂高虎・土井利勝・安藤重信などの人々が平井家に参集した。

6日の早朝、先発隊の秀忠から急便がやってきて「大坂勢が早く城を出た、こちら合戦を始めようとしているから、直ちにご出発ください」それを聞いて家康は「こちらの勝ち戦さだ」と大変なご機嫌で出発した。

(参考資料)交野市史・復刻編、ふるさと交野を歩く(三)、その他